

# AN EDUCATION AND ADVENTURE ALL AGES CAN ENJOY



## 1. WHAKA TAUA (戦闘用カヌー)

戦闘用カヌー、タウア号は1989年にテアラワ族の手によって作られた。  
トタラ(マキ科)の大木を切り出し、長さ20m、重さ2.5t。よく見ると船は3分割されており、全てが彫刻による手作りである。

## 2. GOVERNMENT GARDENS (ガバメントガーデン)

この歴史的にも貴重な場所は1880年、マオリ酋長 ナティ・ファカウエによって謙譲された。今私たちがいる場所は、当時、至る所に沼地があり、温泉が湧き出し、泥温泉も見ることが出来た。地表とマグマまでの距離が極端に近いこの地域では、地熱活動を目の当たりに出来る格好の場所だった。

## 3. TE ARAWA SOLDIERS MEMORIAL & KRUPP'S GUN (テ・アラワ戦士記念碑とクラップス銃)

この独特な記念碑は第一次世界大戦で戦死したテ・アラワ戦士の霊を祭ったものである。このクラップス銃は、当時、マオリ戦闘部隊がフランスに進軍していた時の形見である。

## 4. SULPHUR BAY (サルファ ベイ)

サルファベイはロトルアこの南東部に位置する。地熱活動によって湧き出る濁色の温泉は酸素が少なく、酸性の強い硫酸泉である。ここは145ヘクタールの広さの野生生物保護区で聖域として、今も手厚く保護されており、その中のサルファポイントと言う半島では各種の鳥類が観察できる。現在までで、63種類の鳥の飛来が確認され、その内、45種類がNZ原種の鳥であった。また24種類が水鳥の種類であった。地熱による温暖な環境が、多くの恵みをもたらしている。例えば、年間を通じて食糧難に悩まされる事は無いのもそのひとつ。また鳥は、通常、飛ぶことはもちろん、体温を維持することだけでも、多量のカロリーを要するため、大量のエサを摂取する必要がある。しかし、このサルファベイ周辺では体温維持に地熱を利用することによって、そのためのエネルギーを必要としない。現在、観察できる代表的な鳥の種類は、カモメ、セイタカシギ、チドリ、ウ、カイツブリ、サギ、スズメ、ブケコ、黒鳥など。

## 5. LAKE ROTORUA (ロトルア湖)

ロトルアと言うのはマオリ語で、その意味は、“ロト”は湖。“ルア”は2。  
直訳すると、2番目の湖となる。偉大なマオリ酋長であったイヘンガによって名づけられたもので、彼がこのNZに上陸して、2番目に見つけた大きな湖だったことに由来する。海拔、約279mに位置するロトルア湖の平均水深は約11m。湖岸直径は約10km。マグマ溜まりが噴火により、空になったところに水が溜まってきた湖である。約10万年ほど前にロトルア湖湖底で、大噴火があり、湖岸の地形を変化させたため、水が流れ出し、水位が減少した。それをきっかけに山として姿を現したのが、現在のノゴタハ山であり、島とした姿を現したのが、現在のモコイア島である。ロトルア湖は周辺にある19の湖の中でも、最も大きな面積を誇る湖であり、ヨットや釣り、温泉など、レジャーを楽しむことのできる湖として知られている。

## 6. THE BIRD PERCH (止まり木)

鶺鴒の止まり木で、多くの鶺鴒の観察に最適である。

## 7. TE ARAWA PEOPLE (テ・アラワ族)

西暦1340年前後にテ・アラワ族の乗ったカヌーが東海岸のマケツに到着した。  
その後、アラワ酋長の息子であるイヘンガがこの地域を発見しロトルア湖の一端に位置するオヒネムツに定住し始めた。この村に湧き出る温泉を利用し、豊かな生活をおくることが出来た。

## 8. MOKOIA ISLAND (テアラワ族、所縁の島)

島の広さは、約650エーカー(3000ヘクタール)。数百年の間、湖によって隔離されていたこの島はロトルア周辺にあったいくつもの部族は、この島を巡って、幾度となく争いをした。四方が湖で囲まれていたため、難攻不落の防衛的砦であり、当時、主食の1つであったクマラ(スイートポテト)の栽培に非常に適した土地であった。島の人口は、一時期、宣教師を迎え、200人以上の人達で賑わった。こんにち、島は、絶滅危機に瀕している、鳥たちの楽園として築えている。

## 9. HINEMOA (ヒネモアという娘)

偉大なマオリの末裔で、ウムカリアという酋長とヒネマルとの間に生まれた美少女。それゆえ、ロトルア湖の西岸に護衛と共に厳格な生活を送っていた。

## 10. TUTANEKAI (ツタネカイという男)

モコイア島に住む一人のマオリ男性。

## LEGEND OF HINEMOA & TUTANEKAI (ヒネモアとツタネカイ純愛物語)

昔々、ロトルアには、それはそれは美しい、ヒネモアと言う女性がおりました。  
更に、彼女はとても偉大な酋長の娘で、非常に身分も高く近寄りたがたいほどの気高い雰囲気を持っていました。ヒネモアの美しさは、とても有名で、全国各地から、ヒネモアの心を射止めようと集まる勇者が後を絶ちませんでした。しかし、誰一人としてお眼鏡にかなう者はおらず、ヒネモアの部族の村の門さえ、くぐらせてはもらえませんでした。  
その時、モコイア島には、非常に身分の低い、ツタネカイという男性が暮らしていました。彼は笛の能手で、非常に頭がよく、戦略家として優秀な力を発揮しておりました。彼は誰よりも勇敢で、美しい顔立ちをしておりました。  
その二人はある日、ばったりと出会い、たちまちヒネモアはツタネカイに恋心を抱いてしまいました。その後、再び二人は、民族会議の場での出会い、気持ちは深まるばかり。ヒネモアは来る夜も来る夜も、ロトルア湖岸に座り、ツタネカイが奏でる笛の音を聞き入っておりました。ヒネモアへの思いをつづったその笛の音は、ヒネモアの心を突き動かし、ヒネモアはついに、心を決めました。  
ヒネモアは、真冬の湖に飛び込み、そのまま、モコイア島へ向けて、泳ぎ始めたのです。そしてとうとう、ヒネモアは島まで泳ぎきったのでした。それを見たツタネカイは、いったい何が起きたか分かりませんでした。すぐに自分のつけていたマントでヒネモアを覆い、手厚く家に迎え入れたのです。  
翌日島の人々は、カヌーの大群が、島へと向かっているのを発見しました。それは、紛れも無く、ヒネモアの住む部族の大群で、ヒネモアを連れ戻しに攻め込んできているに違いないと慌てふためいたのです。しかし、それは全くの思い違いで、この二人の結婚を祝福す

るための大群で、ヒネモアと、ツタネカイは末長く幸せに暮らし、部族同志は永遠の友好関係を築いたのでした。

## 11. BLUE BATHS (ブルーバス)

1933年、スペイン様式を取り入れたアールデコ建築物として、一般公開される。それ以来、老若男女を問わず、庶民の憩いの場として、社交ダンスパーティーなどが催されました。今では、博物館となり、その優雅な概観からNZを代表するする建築物の1つとしても知られるようになりました。

## 12. WHANGAPIPIRO (レイチエル源泉という名で知られる)

源泉は元々、雨水が地中にしみこみ、マグマによって温められた岩盤層に溜まります。その岩盤層で温められたお湯が膨張し、地上へと湧き出してきたものです。このレイチエル源泉はポリネシアンSPAへと引かれています。ファンガビピロがレイチエル源泉と解明されたのは、イギリス人美容師のレイチエルによって、このファンガビピロのシリカを含む水の効能が唱えられたことに由来します。

## 13. THE BATH HOUSE (温泉保養所-ロトルア博物館)

現在ロトルア博物館として知られるバスハウスは1908年、温泉療養所として一般公開されました。地下から湧き出していた温泉は、マッサージュルームや、個別風呂に注がれ、併設されたプールでは、この温泉を利用した慢性病のリハビリにも利用されたそうです。現在この建物は、ガバメントガーデンの象徴であり、ロトルアの象徴としても紹介されています。エドワード7世の時代の生活様式を髣髴とさせる建物として、1908年に完成。梁と柱が壁からむき出しになっており、ステンドグラスや、手すりや屋根裏部屋に工夫を凝らした建築様式が特徴的である。

## 14. THE PRINCES GATE ARCHWAY (プリンセス ゲート)

プリンセスゲートと親しまれるこの門は、1901年のデューク・コーンウェルとジョージ5世、そしてメアリー女王などの来航を記念して作られた。トタラ(マキ科)で作られており、夜間はライトアップされる。

## 15. THE DUCK (ダック ボート)

今、乗車しているダックボートは第2次世界大戦時、22000台が製造され、戦艦から上陸するために威力を発揮した。その後、ノルマンディ一上陸まで活躍することになる。現在は、その内900台が姿をとどめており、その殆どがこのようにレジャー用となり世界中のお客様を乗せて、お楽しみ頂いている。

## 16. THE RED WOOD (レッドウッド森林公園)

1901年、170種の植物を一斉に植樹し、この地熱地域に最も適している主の調

査を開始した。レッドウッドはその中でも、最も早く成長した種の1つだったが、木材としての能力は低く、今では、観賞用として公園等のみに植えられるようになっている。

## 17. THE BLUE LAKE (ティキタブ湖という名で知られる)

この地域では、最も人気のある湖で、ウォータースポーツのメッカである。

## 18. GREEN LAKE (ロトカカヒ湖として知られる)

この地域では非常に神聖な湖として知られ、トゥホウランギ部族の者しか立ち入ることが出来ない。この湖の真ん中に浮かぶ島には、ヒネモアの亡骸が埋められていると言われてもいる。湖の名前の由来は、カカヒという非常に美味な貝が湖岸でよく取れたため、カカヒの取れる湖、ロトカカヒと名づけられた。

## 19. LAKE OKAREKA (オカレカ湖)

オカレカというのは、“甘い食べ物”の意。その昔、この湖のほとりでは、多くのクマラ(サツマイモ、スイートポテト)が栽培されたことに由来している。今では余暇を過ごすキャンプ地として知られるようになった。

## 20. MT TARAWERA (タラウエラ山)

1886年6月10日、早朝。タラウエラ山が大噴火をした。その火山灰は数千メートルの高さまで立ち込めた。玄武岩を多く含むマグマとロトマハナ湖の湖底の泥と交じり合い、大噴火をした結果、当時世界の8不思議のひとつに数えられていた「ピンク&ホワイトテラス」と言われるシリカ大地をも包み込み、湖底へと沈めてしまった。タラウエラ山ふもとの村に住んでいた、テ・アリキとモワラ部族は、煮えたぎる大量の灰に完全に埋もれてしまい、今は跡形もない。しかし、ワイオラ村は、その一部が、灰や火山岩による被害を免れ、その噴火の凄まじさを見ることが出来る。その時、ワイオラ村に宿泊していたチャールズ・ハザードとその家族は、1:00am頃目が覚め、火山の噴火によって湖が真っ赤に染まるのを見つめていたと言う。この噴火によって命を落としされた方々は、150名にもほぼり、今も悲しい出来事として、語り継がれている。

いかがでしたでしょうか？ロトルアダックツアー。皆様の思い出にいただけることを心から願っております。万が一、不明な点や、質問等がございましたら、係員にお尋ね下さい。

# Rotorua duck



## Tours

Rotorua | New Zealand



### ロトルアダック ツアーへようこそ!

このツアーの醍醐味は、ロトルア周辺の見所をドライブしながら、ロトルア湖をはじめとする湖に突入し、遊覧までお楽しみ頂けること。所要時間は約35分を予定しています。

<ご注意> 運行中の着席をお願いしております。係員の許可があった場合のみ、車内の立ち歩きが可能となりますが、必ず手すりなどにつかまり、頭上に充分お気を付け下さい。

救命胴衣は外の壁に常備されております。緊急時のみの使用に限ります。

万が一、緊急事態が発生した場合は、係員の指示に従ってください。

### <鴨の声を吹き鳴らせ!>

走行中、人影を見かけたら、一斉に鴨鳴き笛を吹き鳴らしましょう!!!

最終項の地図を参照しながら、下記の名所の説明をご覧ください。

それでは、いざ出発!!